

派遣先所属 岩手県沿岸広域振興局 農林部 森林保全課
氏名 遠藤 朋博（えんどう ともひろ）
派遣期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の沿岸広域振興局森林保全課森林保全チームでは、東日本大震災により被災した治山施設の復旧工事の設計・発注及び監督業務、並びに森林管理道の開設工事の設計・発注及び監督業務を行っています。岩手県の沿岸広域振興局管内は、東日本大震災が発生し、津波による大災害に見舞われた地域です。そして、治山事業については、保全対象として民家・旅館や山林または生活関連道路があるため緊急度が高く、早急な復旧が求められています。これらの治山事業は、震災から2年半が経過し、復旧工事が本格的に進められているところです。また、森林管理道事業については、東日本大震災により被災した施設の復旧工事は、平成24年度までに完了しており、現在は新規路線の開設工事に着手しているところです。

担当業務は、森林管理道の開設工事、及び災害復旧工事の設計・発注及び監督業務を岩手県職員と共に分担して行っています。

具体的には渋梨一ノ渡線開設工事（大槌町）、及び本年度7月末の豪雨により被災した黒崎峠線災害復旧工事（釜石市）を担当しています。

担当工事において、2つご紹介します。

一つ目は、渋梨一ノ渡線開設工事区間に生息するクマタカについてです。クマタカは、いわてレッドデータブックに掲載されている希少野生動物です。



幼鳥 （平成24年12月13日大槌町一ノ渡）

渋梨一ノ渡線は、大槌町渋梨、小鍬地区を連絡する計画延長およそ8km

の林道です。傾斜の強い山林が広がり、アカマツの大木がところどころに見られる地域です。

クマタカは、3月に産卵し、4月～5月に孵化し、7月～8月に幼鳥が巣立を迎え、9月以降、翌年の2月頃まで親鳥から獲物をもらいながら養育されるという生活サイクルを送っています。幼鳥が巣立つ前までは、親鳥の警戒心が強く、大きな音を立てると養育を放棄してしまう事例が報告されています。林道工事で使用する重機の音がクマタカに対して悪影響を及ぼすと考えています。そのため、当担当では幼鳥が巣立った9月から工事を始めるという方針を立て、工事を進めています。



黒崎峠線 査定準備（平成25年9月10日釜石市平田）

二つ目は、平成25年7月27日に発生した豪雨災害についてです。

黒崎峠線は、釜石湾に面する釜石市平田地内の林道です。平成10年度から開設している比較的新しい林道です。この林道では、東日本大震災による法面崩落があり、平成24年度に工事が完了しましたが、今回の豪雨で別の箇所が法面崩落してしまいました。東日本大震災に加え豪雨災害も重なり、災害は待ったなしだなと感じました。

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

沿岸広域振興局が発注した復旧工事を進めていくなかで、復旧工事の進捗

を阻害する要因がいくつかあります。工事材料及び技術者の不足です。

農林部や水産部及び土木部が所管する海岸地域の防潮堤では、仮設工や根固工に大量の石材を用いますが、復旧工事も本格化しており需要が多く、管内や近隣市町村の採石場だけでは供給できない状況があります。遠くは、北海道から運搬する例もあると聞きました。加えて、土砂についても供給が追い付かない状況が続いています。

上記同様に、生コンクリートについても生産工場の稼働率が高い状態が続き、供給が追い付かない状況も見られます。森林保全チームの治山担当者によると、生コンクリートの供給が間に合わず工事を途中で中断せざるを得ないこともありました。

そして、現場代理人など技術者の不足は、復旧・復興事業に関わる企業の抱える課題の一つとなっています。現場代理人の兼任を認めるなど対策が取られています。

沿岸広域振興局森林保全課の皆様は、こうした多くの問題を抱える状況の中、困難にも直面しながらも、平成25年度は「復興加速年」を掲げ、多くの努力を重ねておられます。

このような状況で私のできることは、小さいかもしれませんが、少しでも岩手県沿岸地域の復旧・復興に貢献できるように、これからも業務に尽力していきたいと思えます。



鵜住居地区防災センター（平成25年10月28日釜石市鵜住居）
※東日本大震災の際、指定避難所でないのに多くの方が駆け込み、推定200名以上が犠牲となった施設。平成25年12月に解体が始まる予定。